

### 公務員試験講座 合格者報告会

## 勉強法を後輩に伝授



先輩の体験談に耳を傾ける3年次生たち

エクステンションセンターが開講する「公務員試験講座」の受講生で今年度の公務員採用試験に合格した4年次生による

報告会が10月14、18日の2日間、生田キャンパスで行われた。国家総合職や国家一般職、国税専門官、裁判所一般職、各都道府県及び政令指定都市などの地方公務員に合格した学生のうち代表16人が、学習スケジュールの立て方や勉強方法、面接対策などの秘訣を3年次生に伝えた。

報告会は毎年実施しているが、参加した3年次生がこの会をきっかけに一層モチベーションを高め、翌年の合格につなげている。

報告した4年次生は自身の経験を話すとともに、マーカーや付箋がついた参考書やノート、面接の質問や受け答えをまとめたシートなどを公開。昨年の報告会で先輩に見せてもらったノートを参考にまとめ方を工夫した「不安を感じたら、

自身の体験談を伝える4年次生

エクステンションセンターや講師に相談しよう」「受験する自治体の総合計画には目を通そう。実際に街を歩いてみることも重要」など、具体的なアドバイスを送った。

経済系科目を苦手とする後輩の「勉強法を知りたい」という質問に、国家総合職経済区分や国家一般職を突破した並河夢峻志さん(経済4)は、「私の学習法として、教科書は辞書と捉え、過去問を読んで、分からない部分を教科書で補足した。経済系科目は試験の種類によって出題傾向が異なるため、目標に沿って勉強することも必要だ」と語った。

最後に、これから大変な時期。精神的にもしんどくなってくる。

学生生活も大事にしながら、メリハリをつけて、楽しみながら勉強しよう」と後輩を激励した。

**長期交換留学プログラムが 森村豊明会の助成事業に**

本学の長期交換留学プログラム(1期・2期)及びセメスター交換留学プログラムが、公益財団法人森村豊明会の助成事業に採択された。助成総額は2023年度から3年間で900万円。

森村豊明会奨励賞では、本学国際交流協定校に交換留学する学生に対し、学術研究の奨励と経済的援助を行い、国際社会において有為な人材育成

に資することを目的として、一人当たり60万円が支給される。支給人数は、毎年度5人以内。

海外留学プログラムについては、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が収束に向かい、海外との往来制限も緩和されたことで、徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつある。一方で、世界情勢の不安に加え、物価上昇などの経済的理由などが、助成を行っている。

**緑鳳学会 第32回大会**

本学出身の研究者らで組織する「専修大学緑鳳学会」(近江吉明会長)の第32回大会が10月21日、神田キャンパスで開かれた。大学院博士後期課程で学ぶ2人による研究発表の後、「少子化対策の柱はどう建てられるべきか」をテーマに報告・パネルディスカッションが行われた。写真。

報告者は、福島義和名誉教授▽福島聖子氏(YMCA健康福祉専門学校非常勤講師・昭53文)▽佐々木重人学長▽宗村和広氏(信州大学経済学部教授・平2院法博)▽小谷野剛氏(狭山市長・平7法)▽中山麻紀子氏(チアリングインターナショナル代表取締役・平12経済)。

小杉伸次顧問(札幌学

坂本貴氏(さかもとみゆの)名誉教授・元ネットワーク情報学部長 10月23日、87歳で死去。1974年から2007年まで在職。専門は数学モデル。

小田中聡樹氏(おだなかとしき)元法学部教授 6月9日、87歳で死去。1999年から2006年まで在職。専門は刑事訴訟法。

**千代田学 『谷中暮色』鑑賞とトークショー**

映画鑑賞と監督による解説を通して、ドキュメンタリー作品の意義を探る「人の街を撮る難しさ」を船橋淳「谷中暮色」を見て考えるが9月30日、神田キャンパス10号館黒門ホールで開催された。

この企画は、2023年度の千代田学に採択された「文化的多様性を持つ千代田区の国際性に関する調査・研究―千代田区の街と人をめぐるフィールドワークとそのドキュメンタリー映像の制作―(研究代表・土屋昌明国際コミュニケーション学部教授)」の一環。区の

国際性や多様性を街歩きをベースに探り、映像として記録することを目指している。

上映された『谷中暮色』(2009年公開)は、江戸時代から昭和まで存在した谷中五重塔の再建運動や、そこに暮らす人々のインタビュートンを通して、谷中五重塔の焼失の実際の映像が発見され、この映画のラストシーンに飾った。

監督を務めた船橋淳国際コミュニケーション学部客員教授は「五重塔の思い出話を聞くことで、当時の街の様子が見えてきた。そこにはコミュニケーションがあり、塔がそれを表象する存在だったことが分かる」と撮影時のエピソードを交えながら解説した。「ドキュメンタリー

映像は住民の思いを一つにまとめて伝えるものでもある。日々の生活でスルーしてしまうようなことも映像にとどめることが必要だ。また、コミュニケーションを撮影し、上映することは、地域が抱える問題を語り合うきっかけにもなる」とまとめた。

中国語ドキュメンタリーの研究に取り組む安岡美紀さん(国コミユ3)は、「ドキュメンタリー作品にスト

ーリー性を持たせるといふ手法が面白かった。今後、作品を作るうえで参考にしたい」と話した。

会場は黒門ホールには多くの観客が来場した

**大学院公開講座が始まる**

今日的な学問テーマについて、専門分野の講師が分かりやすく解説する「大学院公開講座」が10月6日から始まった。

PART1(10月6日)は文学研究科がオンライン方式で実施。昨年好評だった「日本語のロフェッションナル列伝」のseason2として、社会における日本語学の活用方法などについて、実践例を踏まえて解説した。

初回は、国際コミュニケーション学部の高橋雄一教授が、日本語教室の現状や日本人ボランティアの活動を紹介した。写真。高橋教授は自身のボランティア経験から「普段接することのない人たちと関わることで世界が広がる」と魅力を語り、

「教室で何を教えるという決まりはないので、学習者が学びたい内容に合わせてあげると良い」とアドバイスを送った。

PART2(11月10日、12月1日、全4回)は経済学研究科が「アフターコロナの成長の息吹」を統一テーマに、神田キャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド方式で開催する。毎週金曜日、18時30分。受

【申し込み】

日本語ボランティア教室での活動の様子

「トピックス」  
-30日の活動開始の目的の30-30分で発表を行う。  
-参加の参加者が、その日のテーマを決めて行う。

でもハラスメント防止対策が義務化されました。ハラスメントは相手に不快な思いをさせたり、自分の発言や行動が相手にとって不利益になったり、相手に身体的・精神的なダメージを与えるものです。自分にとってそんなつもりはなくても、他の人にも同じような言動を取ったとしても、相手がハラスメントだと感じればそれはハラスメントに該当するのではないのでしょうか。かといって、ハラスメントに敏感になりすぎて、人と過剰にコミュニケーションを取らないのも問題です。

人は何を不快と感じるのかを考え、万が一あなたが取った行動が相手からハラスメント行為だと言われたら、反省し、謝って、よく話し合うことが重要です。秋の夜長に、改めてハラスメントについて考えてみませんか？

(キャンパス・ハラスメント対策室員 松延千絵)

本学でも2023年1月に佐々木重人学長が「キャンパス・ハラスメント防止宣言」をうたっており、大手企業に続き、昨年4月からは中小企業におい

**キャンパス・ハラスメント対策室** TEL: 044-900-7858 E-mail: camhara@acc.senshu-u.ac.jp